

医師

大腸癌が増えています。

消化器科部長 村瀬 賢一



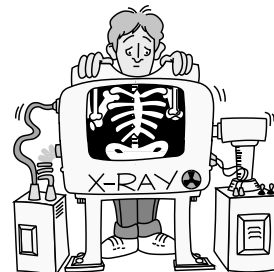
わが国の死因順位第一位は、ご存知のとおり悪性新生物（癌など）ですが、そのなかで消化器領域に限ると、胃癌は毎年の死亡者が減少しているのに対して、大腸癌（直腸癌と結腸癌の合計）は残念ながら毎年の死亡者が男女ともに増加傾向で、平成13年は男性が約2万人、女性が1万7千人になっています。これは日本人の食生活の西洋化（脂肪摂取量の増加など）が大きな要因といわれています。

このような状況に加えて、器械の性能の向上、検査手技の進歩もあり、全国で大腸内視鏡検査・治療（ポリープ治療など）の件数は毎年著しく増加しており、当院でも最新のスコープをそろえて、検査件数がますます増加しています。

腸の検査といえば心理的な抵抗は当然あるでしょうが、大腸癌も、もちろん早期に発見されたら完全に治る病気です。血便などの症状に気づかれたり、健康診断・人間ドックで便潜血陽性（便にわずかでも血液がまじっている状態です）といわれた方は、是非大腸内視鏡検査を受けてください。大腸の検査方法として他に注腸造影というレントゲン検査もあります。

●消化器科外来●

TEL 052-652-5511（内線：251）



★「フィリア・レター」は、中部労災病院が、患者さまに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。